

河川砂防技術研究開発公募(河川技術分野)平成21年度採択テーマ 中間評価結果

【XバンドMPLレーダ等の観測情報の活用に関する技術開発】

テーマ名および概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	XバンドMPLレーダと雲解像モデルによる短時間・極短時間量的降水予測法の開発	名古屋大学 坪木 和久	目標に向け順調に進捗している。実用化に向けて大いに期待できる。
概要	MPLレーダと雲を解像する気象モデルを結合し、局地的豪雨などについて、短時間(1~3時間)および極短時間(30分程度)の高精度的予測法を開発する		
テーマ	ゲリラ豪雨予測手法の開発と豪雨・流出・氾濫を一体とした都市スケールにおける流域災害予測手法の開発	京都大学 中北 英一	目標に向け順調に進捗しており、豪雨の予測については優れた成果を得ている。流出・氾濫解析についてはどのような流域に適用できるか等、成果の実用化を考慮して全体を取りまとめること。
概要	都市域を対象に、「ゲリラ豪雨」・「中小河川や下水道内の流れ」・「浸水氾濫」を一体とした豪雨災害の予知・予測手法を開発する		
テーマ	XバンドMPLレーダの効果的実利用へ向けての降雨観測・予測とCバンドレーダとの連携活用に関する技術研究開発	(独)土木研究所 深見 和彦	収集したデータの分析にあたっては、Cバンドレーダとの連携や洪水予測等での活用に資するように、理解しやすい形で整理するとともに結果をよく考察すること。
概要	XバンドMPLレーダに必要な精度を明確化し、高速な豪雨予測手法とCバンドレーダ雨量計との連携技術を開発する		
テーマ	MPLレーダネットワークによる雨と風の3次元分布推定手法の開発	(独)防災科学技術研究所 真木 雅之	目標に向け順調に進捗しており、期待した成果が得られつつある。
概要	局地的大雨の監視と予測精度の向上に資するために、雨と風の3次元分布および風水害ポテンシャル指標の算出手法を開発する		

(五十音順、敬称略)

【合成開口レーダ(SAR)を利用した防災情報把握に関する技術開発】

テーマ名および概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	リアルタイム画像処理合成開口レーダの実用化に関する技術開発	東北大学 犬竹 正明	目標に向け順調に進捗している。革新的な技術開発を目指しており、達成度は高い。
概要	昼夜・悪天候時の災害画像を航空機上でリアルタイムに取得できる合成開口レーダのハードとソフトを開発する		

(五十音順、敬称略)